

助産学専攻科の授業評価結果に対する考察

助産学専攻科・専攻科長 坂本 すが

1. 授業評価アンケートに関して

- 総合評価は全体的には4以上でした。学生が自ら評価する「意欲的に授業に出席したかどうか」の項目では、学生の出席率が高い点になっていました。学生にとってより重要である「授業内容がよく理解できたか」という評価も同様でしたが3.9でした。この点に関しては授業内容が盛り込み過ぎになっていないか、学生がより分かりやすいような授業方法を考えていきます。
- 具体的には、幅広い知識や技術を得るために、多くの分野の講師による授業展開とすることや周産期医療などの動きを知るために、授業の一環としてセミナーや学会に参加することなども盛り込みたいと考えています。
- また、教員の姿勢については高い評価をいただきました。今後も学生が授業を理解し、意欲が持てるように、更に分かりやすい授業を目指してまいります。

2. 授業において工夫した点

- ① 授業等では、授業や実習に関する報告会を通し、進行状況に合わせて具体的な支援方法について教員間であらかじめ詳細にすり合わせをして授業に望むこと。他の教員の授業に参画し、教員自ら教授力の学習をすること。
- ② 演習形式で行う授業では、学生の理解度が図れるように複数の教員が対応すること。
- ③ 授業ごとに学生の意見、感想を聞き、それを資料などに反映させること。
- ④ 記載されていた質問や疑問点は、次の授業で答えること。
- ⑤ 学生の実践力を高めるために、演習時間を多く取り、実習に沿う形式をとること。

3. 今後の授業や実習について

- 「生殖の形態と機能」は、複数の医師による授業が多く、解剖・生理・病態を中心とした内容であることから難しい授業となっており、試験内容に関して、「授業中に行っていないことが試験に出ている」と批判が多くありましたが、今後、国家試験の範囲は、教科書全体から出題されることを考慮して、広く学習することの意義や授業範囲以外からの出題に関する事前説明を行うことといたします。
- 授業や実習の評価を分析し改善いたします。
助産学専攻科内で統一した講義ができるように、授業計画立案時、その後

の毎週の領域会議において、授業や実習に関する報告会において授業や実習の進捗状況等に関する情報を共有するとともに分析評価を行って授業内容等の改善を図ることといたします。

- 科目数に関しては、盛りだくさんのため、少しでも皆さんが余裕を持って学習できるように、今後、教育カリキュラムの見直しを行うことといたしております。
- また、教員間（非常勤含む）での授業や実習などの教育目標や指導方針を十分に共有して、分かりやすい授業・教育を行うように努めることとし、助産師に必要な主体性・自立性を伸ばしていけるように、グループ演習やグループディスカッションなども取り入れてまいります。

4. 学生に対して

- 助産学専攻科は、助産師国家試験に合格できることを最重要課題において教育を行っておりますが、助産師には国家試験だけでは測れない能力が必要となります。知的な部分は国家試験において評価されますがそれだけでは現場では助産師としての業務を行うことはできません。
例えばチーム医療が重要といわれている中で、コミュニケーション能力など人との対応能力と確実な知識や技術の実施、技術が妥当かどうかの判断力、予測力、そしてそれらを支える倫理的な態度が求められます。
- 助産学専攻科においては、大学を卒業した後、すでに看護師及び保健師の国家試験に合格し国家資格を持った方々を対象として助産師教育を行っておりますが、皆さんには学びに対して自立した姿勢が求められております。教員は、皆さんが将来、問題を抱えたとき、自ら考え行動できる能力を培える教育を探求するとともに高い志を持った助産師の育成に努めてまいります。
- 皆さんは、自ら数多くの本を読み、積極的に授業や演習・実習などから学習し、仲間を思いやり、分娩介助実習などの大きな壁を乗り越えてください。自らが保有している能力を伸ばし、自信を持って知識や実践力をつけていただくよう期待しております。
教員も大いに支援します。頑張ってください。